

上小地域のRSウイルス感染症発生状況について

令和3年8月2日
長野県上田保健所

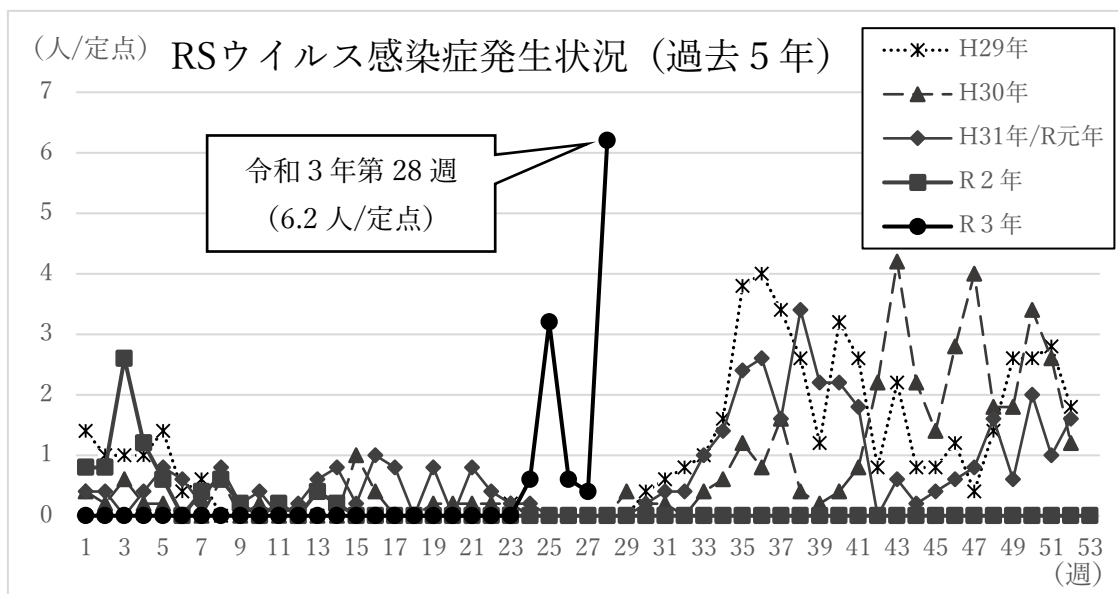
RSウイルス感染症が全国的に急激な増加が見られています。また、上田地域においても保育施設での集団感染事例がありました。

RSウイルス感染症の感染経路は飛沫感染と接触感染で、0歳児と1歳児に多く発症するといわれています。感染に対する意識の定着が困難な年齢であることを踏まえ、保育施設等は特に蔓延リスクが高いと考えられます。

RSウイルス感染症も新型コロナウイルス感染症も、感染予防策は、マスクを着用すること、室内の換気や3密を避けること、症状があれば外出を控えること等の基本的感染対策が大切になります。県民の皆様、学校、保育施設、高齢者施設等関係者の皆様におかれましては、引き続き感染予防策の徹底について御協力をお願いいたします。

1 RSウイルス感染症の発生状況（上田保健所管内）

令和3年第28週（7/12-7/18）において、管内5つの定点医療機関（小児科）から報告された患者数は、31人（1定点あたり6.2人）で、今年最も高い値となりました。また過去5年間で最も早い時期に増加してきています。



3

2 RSウイルス感染症とは

(1) 症状等

RSウイルス (Respiratory syncytial virus) を原因とする病気です。感染してから2～8日（典型的には4～6日間）の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。どの年代でも再感染を起こしますが、特に乳幼児期において非常に重要な病原体であり、生後数週から数カ月の期間に気管支炎、肺炎といった重症な症状を引き起こす

ことがあります。

(2) 感染経路

RSウイルスに感染している人が咳やくしゃみ、又は会話をした際に飛び散るしぶきを浴びて吸い込む飛沫感染や、感染している人との直接の濃厚接触や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等）を触ったり又はなめたりすることによる間接的な接触感染で感染します。

(3) 感染拡大の防止

発症の中心は0歳児と1歳児と言われていますので、日常的に接する人は、RSウイルス感染症の流行時期はもちろんのこと、流行時期でなくても、咳などの呼吸器症状がある場合は飛沫感染対策としてマスクを着用して接することが大切です。

接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行ってください。

3 参考

(1) 厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

(2) 国立感染症研究所「RSウイルス感染症とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/317-rs-intro.html>

(3) 長野県感染症情報

<https://www.pref.nagano.lg.jp/hoken-shippei/kenko/kenko/kansensho/joho/index.html>

長野県上田保健所 健康づくり支援課 (課長) 中澤 文子 (担当) 山口 蓮 電 話 0268-25-7154(直通) ファクシミリ 0268-23-1973 電子メール uedaho-kenko@pref.nagano.lg.jp
--